

指導教諭 K.M

7月15日(土)午前9時、今年を受講生1年生178名を迎え、六稜ホールで6年目を迎える「学内留学」の開講式が行なわれました。北野ではimmersion lectureと英語名をつけました。「immersionとは浸すこと」という意味です。「浸すこと」から推測できるように、手短かに言うと、外国語に浸してしまうことでその外国語を習得させてしまう方法です。例えば理科や社会といったある教科をその外国語で学ぶことで、自然とその外国語を習得するという方法です。

英語イメージン授業は英語のネイティブスピーカーである教師が担当します。そして教科の学習の指導には英語だけを使用します。生徒が理解できない時には、必要に応じて簡単な英語表現への言い換え、ボディランゲージ、ジェスチャー、視覚教材など利用できるものは何でも利用します。そして生徒の理解を助けます。授業では教師は生徒とのコミュニケーションに重点を置き、教科内容を理解させることを目的に行われます。そのため文法的な誤りの正すことを控え、生徒の積極的な発言することを奨励します。英語イメージン教育には生徒への愛情と我慢強さが不可欠なのです。今年も、カナダ、ニュージーランド、合衆国出身の先生方と、北野高校英語科14名の教員は手を携えて、今後も生徒を英語を使う環境に根気強く「浸して」いく努力を重ねたいと思います。



開講式



教育学担当 ピーター先生



ビジネス学担当 ランス先生



心理学担当 クレイグ先生



天文学担当 ジョッシュ先生



環境学担当 ノエル先生

**A 講座 Education Course (教育学講座) by Mr. Peter Vande Veire**

1年8組 F.N

教育クラスでは、ピーターという岩の名前に由来するピーター先生(カナダ出身)に5時間講義していただいた。

1限目に、自分の名前の由来について発表し、2限目にノートの取り方について講義を受けた後、VAK learning styleについて学んだ。VAK learning styleでは、学習の仕方をvisual, auditory, kinestheticの三つ(下部分類を考慮すると6つ)に分類し、学習者は皆、これらのいずれかを得意とするという考えを提唱している。

5限目には、具体例として、VAK learning styleを意識した天体の授業をしていただいた。まず、地球に対する惑星の大きさの比率を出した。この作業は、数字を目で見えて計算するので、visual learningに相当するという。その後、粘土で実際の比率に合わせて惑星の模型を作った。これらは、長時間座って講師の話聞くのが苦手な人向けのkinesthetic(体を動かす)やtactile(実際に触る)という学習スタイルだそうだ。

VAK learning styleという言葉は初めて聞いたので、自分でもインターネットで調べてみたが、日本語での説明はほとんどなく、英語の資料に直接触れることになった。授業だけでなく、教材や自習も英語というall Englishの「留学」スタイルを味わうことができた。

**B 講座 Business Course (ビジネス学講座) by Mr. Lance Domotor**

(ビジネス学講座体験記その1)

1年9組 Y.H

英語で学ぶビジネス学の初日、計5時間にわたり、とても面白い話をたくさんお聞きすることができました。はじめに、自己紹介を

兼ねて自分の名前の由来を英語で伝え合いました。

続いて、宿題チェックを兼ねた6チーム対抗早押しクイズ大会をしました。ビジネス学の受講生には、経済に関する英単語20個の意味を調べて、英語で説明するという宿題が事前に出されていました。先生が英語の説明を読み上げ、それが意味する単語をできるだけ早く当てます。とても盛り上がり、終始和やかなムードで授業が進んでいきました。そうこうしているうちに本格的に授業が始まっていきます。電子黒板にキーワードが映し出され、それをノートに書き留めながら先生の解説を聞きます。例えば、ビジネスに関わっている人や、ビジネスに影響する要素などです。もちろんすべて英語、一切日本語は登場しません。一つ一つのキーワードについて、先生は身近な具体例をたくさん紹介してくださいます。実際の企業が例に挙がることも多く、納得・実感することができます。しかし、授業中に辞書をひくと「NO!」と言われてしまいます。そのため、わからない単語が出てきたら一旦メモして休み時間に急いで調べる作業の繰り返しでした。

次は、自分のお気に入りの製品についてのプレゼンを行いました。実は、自分の好きな製品（音楽プレーヤーや靴など）のお気に入りポイントを書き出してくるという宿題もあり、それを基にプレゼンを組み立てていきました。いろいろな人とプレゼンを見せ合い、最後には数人がクラス全体の前で発表しました。準備時間があまり長くない中でも発表を仕上げるよい訓練になりました。ほかにも、英語の新聞記事から製品の工夫を読み取るトレーニングなどを行いました。初めは英語を理解するのに必死でしたが、段々と英語が滑らかに耳に入ってくるようになり、一語一語英語を日本語に直さずとも、英語のまま理解できたように感じました。自分の興味のある分野について学びつつ、英語を同時に身につけることができた、一石二鳥の大変有意義な時間でした！

(ビジネス学講座体験記その2)

1年4組 S.K

<内容>

1 時間目⇒自己紹介（自分の名前の由来、名前の漢字の説明）

宿題の単語テスト

2 時間目⇒単語テスト、授業

3 時間目⇒授業

4 時間目⇒プレゼンテーションについての授業

5 時間目⇒実際にプレゼンテーションを行う

<感想>

学内留学は"ALL ENGLISH"で5時間にわたり行われました。ビジネス学では2時間目に単語テストのクイズ大会があったのですが専門用語が多く、普段耳にしないような単語ばかりだったので難しかったです。2時間目の途中からは実際に授業が始まりました。授業では先生が話す言葉にはビジネスの専門用語が多く理解するのも大変だったのですが、難しい専門用語も身近な具体例に置き換えて、実際にある企業の名前などを使って説明して下さったのでわかりやすかったです。

4時間目からはプレゼンテーションについて学ぶことができました。キューカードを使ってペアで練習しました。キューカードを使いキーワードだけ書いてプレゼンを行うと、ただ用意した文を読むだけでなくアドリブをいれたり、その場の雰囲気に合わせて話せるのでいいなと思いました。また、人に自分の思いをしっかりと伝えるにはプレゼンの型と論理展開が大事だとわかりました。

5時間目には実際に前に出て発表を行ういい体験ができました。英語で授業を受けたり、プレゼンテーションをしたりと密度の濃い有意義な時間を過ごすことができ本当に良かったです。

**C 講座 Psychology Course (心理学講座) by Craig Boobyer**

1年2組 Y.T

学内留学で、僕は心理学の講座を受けました。心理学というのがどういうものなのかもわからなかったのですが、心について何となく興味があったので、応募してみました。

プログラムは、1時間目：Introduce Myself、2時間目：Note Taking Skills、3時間目：What is Psychology?、4時間目：Influences、5時間目：Psychology in Daily Lifeということでした。プログラムを見て最初に思ったことは、5時間も同じ勉強をすることに対する驚きでした。普通の学校の授業では、毎時間別の科目を勉強します。けれども、学内留学の場合、普通の学校の授業と同じコマ数を受けるにも関わらず、同じ科目（僕の場合は心理学）をするのです。「最後までやり切れるのかなあ。」というのがそのときの気持ちでした。

それで、実際に受講してどうだったかという、とても良かったです。まず、授業は全て英語でした。ここでいう「全て」には、先生が話す言葉はもちろん、スクリーンに映るパワーポイントやプリントの文字も含まれています。言うまでもなく、教室に日本語を話せる先生はいません。このような授業を5時間も受けるのは、初めてでした。とても新鮮な気分でした。また、全て英語でありながらも、その英単語は易しいものばかりでした。たまに、分からない英単語が出てきます。けれども、その時は質問をすると、簡単な英単語に直して説明してくれます。それに加えて、講師の方が大げさに身振りを付け加えてくれたので、より分かりやすかったです。最初の懸念は、全般的な外れなものでした。

受講して、ひとつの気付きがありました。それは、受講すると疲れが出るということです。この疲れの原因は何だろうと考えてみました。恐らく、日ごろ英語をあまり使っていないことによる疲れだと推測します。学校でも英語の授業は受けるけれども、量が全然違

うのです。「日本語に慣れすぎてるのかなぁ。」とつくづく思いました。

僕は、学内留学が非常に良いものだったと思います。学内留学は、僕の英語力が未熟で、日本語への依存が強いことを知らしめてくれました。これからも、英語の勉強に励んでいこうと思います。

#### **D 講座 Astronomy Course (天文学講座) by Mr. Josh Glaser**

1年1組 S.E

1時間目は事前に考えてきた自己紹介、名前の由来や漢字の意味について発表した。2時間目からは、太陽系の惑星について講義を受けた。地球型惑星と木星型惑星に分け、それぞれの惑星の太陽からの距離や公転周期などの特徴、衛星の特徴について天文学用語の確認から細かく教わった。そして残りの時間でロケットの構造について学んだ。ロケットエンジンの仕組みや、大気圏に出てからのロケットの動き、ロケットの備品などについて詳しく講義を受けた。

オールイングリッシュの講義に、初めはわからなくてかなり戸惑ったが、講義は映像とともに行われるため、分からない単語があっても理解の助けになり、集中して聞いていると少しずつわかるようになった。また、わからなくても質問すればとても丁寧に教えてくださるので、さらに理解を深めることができた。今回、自身の英語力、知識不足を痛感したが、私の興味のある天文学の講義だったので、すべての英語が新鮮で、また身近に感じる事ができた。毎回の講義でたくさんのお話を吸収し、日本語でも英語でも説明できるようになりたい。

#### **E 講座 Environmental Science Course (環境学講座) by Mr. Noel Slattery**

1年2組 M.S

1時間目：はじめにノエル先生の自己紹介、名前の紹介がありました。その後自分たちの名前の由来や、使われている漢字の意味などについて班で発表し、全体でも発表しました。

2時間目：名前紹介の続きの後、英語での数の数え方（大きな数字や、分数、小数など）、温度の表し方、面積や体積のあらわしかたなど、基本的な知識の確認をしました。その後、今日のトピック「Water」が発表され、まず、自分たちが今日今までどんな場面で水を使ったかを班で考えて文章にまとめました。

3時間目：まず、水がかかわる化学変化である燃焼、呼吸、光合成についての説明がありました。その後、水の性質（極性や状態変化について、地球上での水の割合など）の説明がありました。講義が一通り終わったところで確認の問題プリントを班で行いました。

4時間目：水の循環について、降水、蒸発のサイクルについて、3時間目の話を踏まえた説明がありました。3時間目と同様に、確認の問題プリントもしました。

5時間目：今日習ったことを班の中で英語で共有、その後水の循環についてまとめて英語で何人かがスピーチをしました。そこで、ノエル先生からスピーチの際の注意点なども教わりました。その後、次回の水に関するスピーチについての説明がありました。

<感想>

環境学では専門的な用語が多くあったり、その単語を調べているうちに話がどんどん進んでしまったりと、説明されたことを全部理解することはできず、むしろ途中で何の話をしているのかわからなくなることも多くありました。ですが、最終的には今日の授業の内容のほとんどを理解できていました。その理由としては、まず、講義中もずっと班になっていて、わからない単語や説明を共有できたこと、また、別の説明をしているときに前の関連する説明を振り返ってもらうことで聞き取っていたものを文字として確認することができたり、講義中難しい単語はすべてを辞書で調べなくても一部は簡単な言葉で言い換えてくださったりしたこと、などがあげられます。講義中はずっと必死でとても不安になりましたが、終わってみるときちんと理解できている、不思議な体験でした。